「メドヴェプーチンスキー・タンデム」 - 大統領選後のロシアの新体制

2008 年 3 月 2 日に投票が行われるロシア大統領選は、事実上、与党「統一ロシア」の推すメドヴェージェフ第 1 副首相、ジュガーノフ共産党議長、ジリノフスキー自由民主党議長の三者の争いだが、昨年 12 月の下院選の結果や世論調査から判断する限り、メドヴェージェフの勝利は間違いない。したがって 12 月 10 日、「統一ロシア」を含む 4 党党首がメドヴェージェフを大統領候補に指名、プーチン大統領がそれを了承したとき、ロシアの大統領選は実質的には終わったと言える。もちろん、大統領選の投票率やメドヴェージェフの得票率が、先の下院選の投票率（63.78%）や「統一ロシア」の得票率（64.30%）に比べてどうなのかという問題はある。これらの数字が下院選に比べていちじるしく低いというわけにはいくまい。メドヴェージェフ陣営ものんびり構えているわけにはいかない。

メドヴェージェフのプロフィール

ところでメドヴェージェフとはいかなる人物なのか。ドミートリー・メドヴェージェフは 1965 年 9 月 14 日生まれの 42 歳。レニングラート州で大学教授の家に生まれた。1987 年にプーチンと同じレニングラート国立大学法学部を卒業、1990 年に同大学院を修了、法学博士候補の学位と助教授資格を持つ。1989 年 3 月、のちにサンクト・ペテルブルク市長となるサプチャークのソ連人民代議員選の選挙運動に加わり、プーチンと知り合っている。プーチンは、1990 年にレニングラート市ソヴィエト議長[1]サプチャーク顧問、1991 年 6 月からサンクト・ペテルブルク市庁対外関係委員会議長となったが、メドヴェージェフはこのとき、この対外関係委員会の法律専門官となり、その後、プーチンがサプチャークのもとで第 1 副市長になると、メドヴェージェフもプーチンの補佐官になっている。1999 年秋、メドヴェージェフは、プーチン首相のもと、政府官房副長官に任命され、同年 12 月 31 日、プーチンが大統領代行に就任すると、同日、メドヴェージェフも大統領府副長官に任命されている。2000 年 3 月の大統領選では、メドヴェージェフはプーチン陣営の選対本部長も務めた。その後、2003 年 10 月 30 日、プーチン大統領はメドヴェージェフを大統領府長官に任命、さらに 2005 年 11 月 14 日には第 1 副首相に任命している。

---

[1] 1990 年にレニングラート市は旧称のサンクト・ペテルブルク市に戻り、同時期に、ソヴィエト制から議会制へ移行、それにともなって市ソヴィエト議長も公選市長（のち知事、2004 年からは非公選）に変わった。

このように、メドヴェージェフは 1991 年から一貫してプーチンの部下として働いてきた。メドヴェージェフが 4 党から大統領候補に指名されたとき、プーチンは、メドヴェージェフとともに 17 年以上にわたって「緊密かつ成功裏に仕事をしてきた」、「この指名には全面的に賛成だ」と述べている。メドヴェージェフは、第一副首相としてはおもに社会経済政策を担当。グルィズロフ「統一ロシア」議長は、社会経済情勢に最も精通し、国民生活向上に誰よりも努力してきた人だと、メドヴェージェフを持ち上げている。一時は大統領候補最有力と目されていたセルゲイ・イワノフ第 1 副首相が、プーチンと同じ旧ソ連国家保安委員会出身で、国防相などを歴任し、ハードライナーと見られてきただけに、ロシア最大の政府系天然ガス企業「ガスプロム」会長も兼務してきたメドヴェージェフは、経済にも明るくソフトだとのイメージがあり、彼の大統領候補指名は海外も歓迎ムードだ。

「メドヴェプーチンスキー・タンデム」とは？

メドヴェージェフは、4 党から大統領候補に指名された翌日、自身の大統領就任後にはプーチン大統領を首相に任命すると言明、12 月 17 日の「統一ロシア」党大会で正式にメドヴェージェフが大統領候補に指名されると、プーチン大統領も首相就任を受け入れた。ロシアでは、この「メドヴェージェフ大統領・プーチン首相」体制を「メドヴェプーチンスキー・タンデム」と呼んでいる。

ロシア憲法によれば、大統領は国家元首としてロシアを代表し、内外政の基本方針を決定（第 80 条）、下院の同意を得て首相を任命し、首相の提案に基づいて、副首相と大臣を任命するほか、政府総辞職を決定できる（第 83 条）。憲法上、大統領が首相に対して優位にあることは明白だ。しかし政治の世界は、実力の世界でもある。

それゆえ実際には、この「メドヴェプーチンスキー・タンデム」は次のようなものとなろう。①メドヴェージェフ大統領が国家元首でありロシア連邦を代表する。②メドヴェージェフ大統領が首相を提案する場合、下院の同意が必要なため、下院の過半数を占める「統一ロシア」の提案に従う必要があり、それゆえメドヴェージェフがプーチンを首相に提案したことは、プーチンが「統一ロシア」の下院候補者名簿の第 1 位に記載されていたことからも合理的。与党の役割はより重要となる。③メドヴェージェフ大統領が副首相と大臣を任命する場合、憲法第 83 条の規定により、プーチンの提案に従うことになる。政府の人事権はプーチン首相が握ることになる。

しかも憲法第 114 条は、外交、安全保障、治安分野の施策を政府にゆだねている。政府は巨大な官僚機構を持ち、巨額の予算を動かしている。それゆえ首相の権限も大きい。したがってメドヴェージェフ大統領のもとで、プーチンの政府、つまりプーチン政権ができると考えてよい。もちろん、永遠にプーチンが実権を握り続けるわけではない。メドヴェージェフ大統領が仕事に慣れ、軍や治安機関もうまくコントロールできるようになれば、プーチンが若い大統領を支える必要もなくなるだろう。